

INTERVIEW

独立行政法人地域医療機能推進機構 理事長
尾身 茂 先生



日本の新型コロナウイルス感染症対策のリーダーとして

聞き手：山田隆司 地域医療研究所長

徹底してクラスターを潰す

山田隆司(聞き手) 今日は尾身茂先生をお訪ねしました。先生は、当初から新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の副座長として、そして現在は新型コロナウイルス感染症対策分科会会長として、携わっていられています。本当にご苦労様です。

尾身 茂 これまでを振り返ってお話したいと思います。

日本の新型コロナウイルス感染症対策は、ハンディキャップを背負って始まったと思っています。それはどういうことかという、2009年の新型インフルエンザの流行が終わった際に評価

会があり、現状の課題、例えばパブリックヘルスの専門家の数、検査体制、リスクコミュニケーションも含めた危機管理等について、今後起こり得るパンデミックに備えて議論がなされました。ところが2009年の新型インフルエンザは、実は世界の中で日本は人口当たりの死亡率が群を抜いて低かったのです。またSARS、MARSの時には感染者が日本では国内で出ませんでした。そういった、ある意味では成功体験のようなものがあつたのです。その上その間に政権交代もありました。さらにその後東日本大震災を始め数々の自然災害がありました。そういうこ

*このインタビューは2020年10月13日に実施されたもので、内容はその時点の状況に準じています。

ともあり、2009年の流行後に議論された対策が実行されなかったのですね。そのような中で今回、新型コロナウイルス感染症が発生してしまいました。

感染症対策というのは、大きく2つに分けられます。いわゆる普段からの準備、preparednessがまずあり、アウトブレイクが始まったらすぐに対応するという、その2つの側面があるわけです。1つ目のpreparednessは、先述のように日本は不十分でした。さらにクルーズ船で感染が始まったわけですが、この船籍は日本国内ではなかったの、国や役所、病院のリソースがかなりそちらに取られてしまいました。そういうところから始まったのです。

しかし、その後日本が欧米諸国と比べるとうまくコントロールできたというのは、多くの人が認めるところだと思います。なぜ日本がpreparednessが不十分だったにもかかわらず、他国のようにロックダウンもせずに辛くも凌いでこられたかという、1つは医療関係者の努力です。2つ目が保健所関係が非常に頑張ったということ。そして、国民の健康意識があったことです。それによってここまでこられたのだと思っています。

そして、日本が「クラスター対策」という独自の対策を行ってきたことが大きいと言えます。日本はかなり早い段階で、ウイルス自体の性質というよりも、むしろ感染症対策上の非常に重要な点として、このウイルスがインフルエンザ等とは異なる伝播の仕方をするのを突き止めていました。

山田 クラスタ分析をしたことで、伝播の仕方が大体明らかになったということですか。

尾身 はい。その中で「3密」という概念が出てきました。

山田 当初はクルーズ船の中で広く伝播したので、空気感染を起こしているのではないかと考えた

りしましたが。

尾身 クルーズ船は1つのクラスターだったわけですね。初めは3密を楽しんでいたわけですからね。

山田 インフルエンザや他の感染症とは明らかに違うようですね。

尾身 どこが異なるかという、例えばインフルエンザは、5人が感染すればその5人の一人ひとりが他の人に感染させます、実効再生産数に伴って、ところがこのウイルスはどうも5人いても1人しか他の人に感染させないようなのです。専門家会議ではこれが極めておかしい、ということになりました。つまりこの図のように、普通の感染症では1人から2人、2人から4人と感染が拡がるので、5人感染者がいれば5人が感染を拡げていきます。しかし新型コロナは、5人のうちの4人は他に感染させない。1人だけがいわゆる3密のある場所にたまたま行って他の人に感染させるわけですね。たまたま行かなければ、この人も感染させないからそこで終わるのです。ところが、ある1人が夜の街やカラオケなどの3密のところへ行くとそこで感染が拡大する。これがこのウイルスの特徴です。

そこで、日本はどうしたかという、このことが分かっているから、感染者を後ろ向きに追ったのです。欧米では、感染者がいると、そのそばに当然濃厚接触者がいるわけで、その濃厚接触者が発症するかどうか、前向きに調査したのです。でもたとえ濃厚接触者がいたとしても4人は感染させないわけですし、実際に感染が増えてくると、1人の感染者に濃厚接触者が何十人といるので、それを追うのは不可能です。ところが、日本は後ろ向きで、5人感染者がいればその人たちの過去の行動を振り返る。それで「昨日カラオケに行きました」という人がいたら、そこがクラスターになるかもしれないので、その濃厚接触者の検査をして外部との接触を断ってもらう。そうしてクラスターを潰す。こ